

「児童生徒、教職員双方のコミュニケーション能力の育成・向上」に関する実践事例

学校名	山口県立光高等学校
テーマ	『朝のメッセージ』・『ピア・サポート活動』の取組み
対象者	全校生徒、教職員
実施場所 (環境等)	生徒昇降口 各教室、学校行事（光潮セミナー・学校説明会等）
<p>内容（具体的な取組）</p> <p>◎『朝のメッセージ』</p> <p>(1) ねらいと展開 生徒とのコミュニケーションづくりの取組として、生徒課の教員が3年前から、毎朝、生徒に向けたメッセージを小黒板に記入し、生徒昇降口の正面に置いて生徒の心に語りかけている。</p> <p>(2) 実践の工夫 毎朝の教員による遅刻防止指導や生徒会役員による定期的な挨拶運動と併せて、朝のメッセージを生徒に発信している。内容はその時々話題や生徒課からのお願いであったりする。教員の思いを積極的に発信している。</p> <p>(3) 成果及び課題 メッセージに書かれている内容を毎朝、楽しみにして登校している生徒も多く、「心が洗われ、すがすがしい一日をスタートすることができる。」と言うような生徒の感想も聞かれる。一人の教員の発想からスタートしたこの取組であるが、その教員の熱意と発想のすばらしさに支えられて進められている。この取組が学校全体の生徒指導の取組に拡大していくことが今後の課題である。</p> <p>◎『ピア・サポート活動』</p> <p>(1) ねらいと展開 生活体験の不足と対人関係の未熟さが顕著に見られる今日の生徒が抱える様々な課題を解決するために、生徒から生徒への声掛けや他の人の役に立つ活動等を実践する。生徒による支援活動を通して、生徒同士のかかわりの必要性に気づかせ、基礎的な社会スキルを段階的に育てていく。</p> <p>(2) 実践の工夫 ◇昨年度までの取組 平成17年度 *先進校視察 横浜市立本郷中学校 平成18年度 *校内研修 講師 広島大学大学院准教授 栗原慎二氏 *先進校視察 高知県黒潮町立大方中学校 *広島大学主催の研修会参加 *ピア・サポート検討委員会設置 平成19年度 *校内研修 講師 広島大学大学院准教授 栗原慎二氏 ◇本年度の取組 *校内研修を踏まえ、第2学年の光潮セミナー（生徒の1日総合研修）においてピア・サポートについて生徒に講義〔教育相談係教員〕 *ピア・サポーターの募集：2回実施〔6月・7月〕 2年生6名の女子生徒が希望しており、8月に実施する学校説明会で、案内係や受付、相談等の支援活動を行う予定</p> <p>(3) 成果と課題 県外の先進的な取組では小・中学校において効果的な取組が実践されているが、高等学校段階では実践例が少ない。本校では教員研修等を通して、ピア・サポート活動について教員の理解がある程度できた段階である。本年度は担当教員の根気強い働きかけでピア・サポーターの希望者があったが、具体的にどのような活動ができるか未知数である。ファシリテーターやコーディネーター等の育成、また、ピア・サポーター以外の取組も含めて、どのような具体的実践ができるかが今後の課題である。</p>	
※参考資料等	